

自然との対話技術の採集と保存

提案の趣旨

伝統的価値観、感性、思考様式が、国の進路選択の最後の決定打。一言でいえば、それら日本人らしさを失わないよう、それを培養してきた、人と風土との対話技術を温存すべきだ。

近代技術の功罪

近代技術は人類に福音を与える一方で脅威をも及ぼしている。また、累積性があるために、野心ある誰かが欲する限り進化が起り、かつ世界化するという方向性をもっている。全人類が忌避しない限り進化は止らない。

ダイナマイトはそれ自体中立の物質であるが、使い方によって脅威に変わった。相対性原理は応用において人類最大の脅威になった。胚細胞の研究は生物学の基礎であったが、応用としてクローン人間を誕生させかねない。生活必需品のあらゆる商品化は便利をもたらす反面で、直接間接、人間疎外要因として作用している。核、テロの脅威は言うまでもなく、圧倒的な情報化、青少年の孤独化、暴力化などは、科学技術の便利の裏に生まれた矛盾であろう。

そういった非制御・伝播の傾向を持つ近代技術を、宿命的なものとして無批判なまま受け入れるのか？ 条件つき、あるいは拒否の姿勢で臨むのか？ 瀬戸際で防除するのか、その場合、われわれの力で防除できるのか？ といった問題を、現代人、ないし現代国家はたえず突きつけられている。

技術の世界化への対応

かつて日本は、農耕文明は受け入れたが、宦官、去勢の技術や、食用のための羊、牛、馬を受け入れなかった。その背景には、自然的条件に合うかどうかの判断以前に、心情的な問題（感性、価値観との折り合い）があったのではないだろうか。農耕に関しては、縄文時代に粟などを植えた経験もあって、新しい主食となる米を受け入れるにも抵抗がなかったのではないか。

今も同様の選択の自由がなければならない。政治マターではあるが、その前に主権者たる日本人の感性、価値観がどう評価するか？ それが決定要因でなければならない。

核のボタンを押すも押さぬも（トップの）価値観しだいだ。では、その価値観はどのようにして育つのだろうか。価値観の培養は人為的に操作可能なのだ。全体主義国家の政治的プロパガンダやカルト集団の洗脳に好例をみることができよう。わが国にもかつて『神国日本』が植え付けられた。

ただ、超長期的に見た場合の価値判断は、時の都合で、ではなく、日本人らしさの根拠

「アイデンティティ」に基づくべきではないだろうか。当国にとって最も普遍性の高い永続的な価値観が、国の遠い将来を決める際の尺度であるべきと思うからだ。

そこで、日本人本来の感性（価値観の根源）の培養が必要だ。かつてのそれは、生態学的大国といわれるほど自然豊かな風土との、たゆまざる対話の中から生まれたものだった。それが今でも、脳死、心臓移植の問題、クローンへの対応など重要な場面で顔を出し、決定的な役割を演じていることだろう。

可否の判断は日本人らしい価値観で

ただ、一方では疑問がある。

これほど都市化し、幼少のころから塾やお稽古事に明け暮れる非自然な環境の中から日本人らしい「アイデンティティ」が個々人に育つのだろうか。生活パターンの近年の変化は、自然との対話を失わせ、その結果、風土に対する感性が育たず、あるいは価値観も弱いものになっているように見受けられる。都市化も近代技術の浸潤も、放置すれば切りがなく、成り行きに任せてしまえば、確たる「日本人らしさ」不在の、たゆたう価値観しか持ち得ない日本人に成り果ててしまうのではなかろうか。わが国には、このことについての危機感も少ないが、環境とアイデンティティの対応・因果関係の追跡をはじめ、今後の国土政策の一環として追求する必要があると考えられる。

「日本列島の住民」らしい価値観、感性の培養は、日常生活において風土との深いつながりを持つところでなされる。

早い話が、川で釣りをすると川の理解が進む。森で小鳥を追えば森の深さや神秘を知る。トンボを追えば水辺の美しさを知る。海でも山でも交流することによって、自然はその神秘のヴェールを開陳してくれるだろう。それら多くの目標をもつ個人的体験が、彼に自国の風土を奥行き深く見る複眼を養い、感性を育てる。多くの人々がそうすることによって、日本人らしい「アイデンティティ」の形成が促進されるだろう。

鍵は自然との対話手法の採集と保存

茶道や、柔剣道、華道などと違って、滅びつつあるのは、伝統的な釣り、泳ぎ方、海女のような潜り方、鳥を捕る方法など地域風土ごとに異なる土着的な手法だ。その技術を失う前に保存の努力をすべきだ。

民話の採集と同じように、河川、森、野原、海、などでの対話手法を発掘し保存する。もはやノウハウをもつ高齢者は少なくなり、復元が困難になろうとしている。それをどう活用するか？ 今は、分からないが、まずは保存に力を注ぐべきだ。近未来において重要な価値を生むような予感がしている。